

第 711回 新潟放送番組審議会 議事録

— 議題 —

B S Nテレビ 日本のチカラ

「鬼になる～太鼓で沸く 島の春～」

令和 7 年 10 月 23 日

BSN新潟放送

第 711 回新潟放送番組審議会

1. 開催日時 令和 7 年 10 月 23 日(木)午前 11:00~

2. 開催場所 BSN新潟放送 6F会議室

3. 委員の出席

○ 委員側出席者 (敬称略・順不同)

委員長	馬 場 省 吾	副委員長	佐 藤 元
委 員	高 橋 信	委 員	渡 邊 信 子
委 員	馬 場 幸 夫	委 員	石 坂 智惠美
委 員	太 田 勇 二		

○ 審議番組事前レポート提出者

委 員	大 橋 未来子	委 員	三井田 由 香
-----	---------	-----	---------

○ 放送事業者側出席者

社 長	島 田 好 久
取 締 役	小 湊 潤 (編成業務局担当役員)
取 締 役	島 田 讓 (報道制作局担当役員)

<説明員> 内 藤 百 花 (報道制作局報道制作部)

事務局長	間瀬 学 (編成業務局長)
事 務 局	品 田 泰 (編成業務局テレビ編成部長)

4. 議 題

1 報告事項 「青少年に見てもらいたい番組」と番組種別公表制度に基づく
「放送番組種別と種別毎の放送時間」の報告

(2025 年 4 月 ~ 2025 年 9 月)
令和 7 年 11 月の番組について(各担当)

2 審議番組 日本のチカラ「鬼になる ~太鼓で沸く 島の春~」について
(放送日時:令和 7 年 6 月 22 日 放送)

5. 議事の概要

島田社長のあいさつに続き、日本のチカラ「鬼になる～太鼓で沸く 島の春～」についての審議が行われた。(令和7年6月22日放送)

～番組審議委員の主な意見～

- 佐渡の伝統芸能「鬼太鼓」が島に深く根付いている様子がよくわかった。特に春日鬼組が地域コミュニティの核となっていることが伝わった。
- 斎藤会長のリーダーシップと「誰でもウェルカム」という方針が、移住者や女性、こどもたちを巻き込み、伝統継承と地域活性化に繋がっている点が素晴らしい。
- こどもたちが鬼太鼓を「かっこいい」と語る姿や、中学生が継承への思いを語る場面が印象的で、未来への希望を感じた。
- 門付けで地域住民と交流する様子や、練習後の懇親の場面などから、鬼太鼓を通じた人々の温かいつながりが感じられた。
- 三石アナウンサーのナレーションが落ち着いたトーンで、番組に深みを与えていた。映像の表情の描写も良かった。
- 番組冒頭の「この島には鬼が住んでいます」というナレーションや「鬼になる」というタイトルが視聴者の興味を引きつけた。
- 120もの団体があることや、後継者不足で解散した団体もあるという事実に、伝統継承の難しさを感じた。他の団体の様子も少し紹介してほしかった。
- 鬼太鼓の歴史的背景やルーツ、多様な「型」についての解説があれば、より理解が深まったかもしれない。
- 佐渡の表記について、「佐渡島」と書いて「サド」と読ませる意図の説明がほしい。

～新潟放送 報道制作部 内藤百花より～

たくさんの温かいご意見、ご感想をいただきありがとうございました。取材を進める中で鬼太鼓の持つ力や魅力に圧倒され、それが視聴者に伝わればという思いで制作しました。

佐渡の表記については、全国の視聴者に「島」であることを端的に伝えたい意図と、「鬼ヶ島」の連想を避けたいという配慮から「佐渡島(サド)」としました。

小学生の「割り箸」発言については、ルッキズムの意図ではなく、こどもらしい屈託のない表現として捉えていました。ご指摘を受け、より多角的な視点が必要だと感じました。

鬼太鼓のルーツや他の団体の紹介については、時間の関係であまり紹介できませんでしたが、今後制作予定の1時間番組で、深く掘り下げていきたいと考えています。

【文責：番組審議会事務局】